

成功した モバイル 活用事例 2009

mobile
case
study



- MCPCアワード受賞企業をはじめとする先進事例
- モバイル活用の実態とトレンドが見えてくる!

モバイル活用によるイノベーションが ビジネスを新次元に引き上げる!!

業種	情報サービス
活用分野	個人の健康情報の一元管理 (登録・蓄積・閲覧等)
テクノロジー	PHS・携帯電話

個人向けに健康情報管理サービス モバイルからの簡単登録を実現

「病院を替えたとき、同じような診察や検査を受けるのが煩わしい」——このような不満を解消する仕組みが2008年10月1日から提供されている。NPO法人 日本サスティナブル・コミュニティ・センター(SCCJ)の健康・医療・福祉分野情報化プロジェクト「どこカル.ネット」が運営する個人向け健康情報管理サービス「ポケットカルテ」(<http://pocketkarte.net>)である。

このサービスは、病院ごとのカルテや特定健診など利用者の健康情報を電子化して一元管理するプラットフォーム機能を提供する。総務省による推進などで注目されるPHR(Personal Health Record)サービスとしては国内初であり、救急現場での患者情報確認、医療費の高騰といった課題の解決につながると評価されている。

転院や救急時に使える健康情報を PHS・PCからいつでも閲覧可能

ポケットカルテは、SCCJの北岡有喜顧問が発案・企画し、Web型電子カルテシステムを提供するアピウス、モバイル向け健康情報サービスを提供するフェイス、ウィルコムとの3社とともに共同開発した。

会員登録は無料。PHS・携帯電話のキャリアを問わずブラウザ搭載端末ならどこからでも簡単に行える。会員登録後は、自宅PCからカルテの登録・閲覧や病院検索機能が利用で

きる。

また、ユーザIDとケータイ番号を紐付けることでの本人確認やSSL通信によって、セキュリティを確保している。

健康診断や受診の際に受け取った結果をポケットカルテに登録すれば、自分自身の健康情報をいつでも閲覧・メンテナンスできる。データ形式には医療情報を電子化する標準規格の「HL7 CDA-R2」を採用しているため、医療機関との情報連携や情報共有も容易に行える。

ポケットカルテを利用すれば、転院や救急時あるいはセカンドオピニオンを求める場合にも、効率的かつ質の高い対応をしてもらえるようになるというわけだ。

4カ月で1万人超が会員登録 医療・健康に対する意識も向上

登録会員数は、モバイルから手軽に申し込めることもあってサービス開



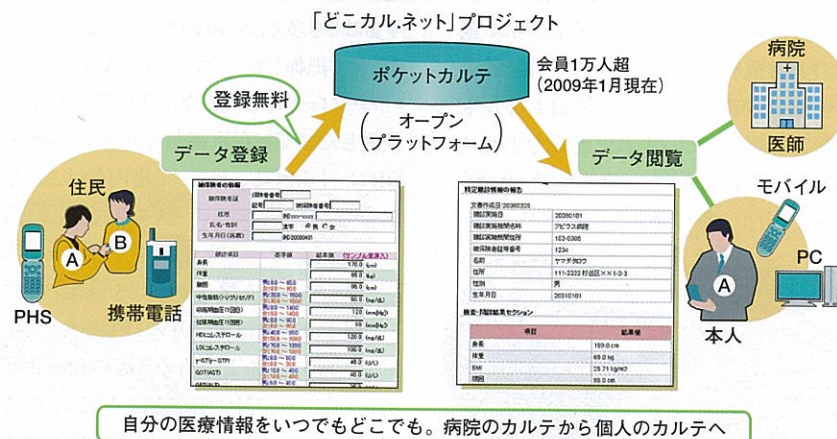
「個人の財産である健康情報の一元化によって、効率的で質の高い医療環境を実現できる」

日本サスティナブル・コミュニティ・センターの北岡有喜顧問

始からわずか4カ月で1万人を突破した。そして、利用者からは「カルテを個人の所有財産として携帯できることが実感できた」「健康診断の数値をいつでも閲覧できるので日常に関心を持てるようになった」など、医療・健康への意識が高まったことに対する感謝の声が寄せられているという。

北岡顧問は、「今後は利便性の高い機能をどんどん追加するとともに、病院や医療機関に積極的に働きかけていくことで、より多くの方がポケットカルテを有効活用できる環境を整えていきます」と力を込めている。

図「ポケットカルテ」の利用イメージ



Profile

NPO法人 日本サスティナブル・コミュニティ・センター
<http://www.sccj.com/>

所在地 京都府京都市伏見区深草枯木町 33-1

設立 1999年1月(法人設立は2002年4月)

事業内容

地域情報化をキーワードに、地域住民を主体とした各種プロジェクトを展開